



ルー
テル

藤が丘だより

発行 月報委員会

発行日 2022年5月1日

No. 96

イエスはトマスに言われた。
「わたしを見たから信じたのか。
見ないのに信じる人は、幸いである。」

ヨハネによる福音書 20章29節



礼拝献花より

御言葉に生きる

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

ローマの信徒への手紙 10章17節

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会 牧師 佐藤和宏
〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp



シリーズ説教

『真ん中の神』

牧師 佐藤和宏

ヨハネ20章19～31節

弟子の一人、トマスはその時、一緒にいませんでした。ですから他の弟子たちが「わたしたちは主を見た」と告げても、それを信じていることができませんでした。彼は言っているのです。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」さて8日ののち、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいたと、話は展開しています。そしてイエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われたのでした。「わたしたちは主を見た」と告げる、仲間たちの声を信じていることができなかったトマスのために、復活の主は来て、真ん中に立ってくださったのでした。ユダヤ人を恐れ、鍵をかけていた弟子たちのところに来てくださったように。

このように復活の日の場面を追っ

てまいりますと、恐れる弟子たち、信じていることができずに疑うトマスの姿が浮き彫りとなります。しかし大切なことは、彼らが恐れなくなる、疑わなくなるということではなく、恐れる者のため、疑う者のために繰り返して来て、真ん中に立ってくださる復活の主、この方なのです。

さて、「バロック期の美術の先駆け」とも言われる、画家カラヴァッジョの作品の一つに、今日の一場面を題材としたものがあります。ここに描かれているのは、彼らのところに来て、真ん中に立たれた、復活の主トマス、そしてトマスの背後から覗き込むようにしている二人の弟子たちです。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」こう言ったトマスに、イエスは「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」と言われたのでした。カラヴァッジョはこの場面をこのように描いているのです。決し

てトマスが興味深げに、イエスの傷跡に手を差し伸べているようにはみえません。それどころか復活の主ご自身が、彼の手を取り、強いてその傷跡に触れさせているのです。一方、トマスがどのように描かれているかと言いますと、彼は自分の手が差し入れられた、イエスの傷に目を向けているのではありません。その目は宙を見ているように描かれています。

背後の二人の弟子たちが、イエスの傷跡に目を向けているのは、実に対照的にみえます。トマスが、イエスの傷跡ではなく、宙をみているように描かれている、そのまなざしは、私には自らの心に向けられているように映ります。トマスは、その心に十字架を見ているのではないでしょう。か。キリストの傷跡に差し込まれた、その指のなま温かい感触。そしてその傷の激しい痛みさえも、感じ取っているのではないのでしょうか。キリストが十字架の上で受けられた傷、その痛みさえも、自らが負うべき罪のために負われた痛みであることを実感しているようにみえるのです。カラヴァッジョが描いているのは、このように、十字架と復活の深

い部分、その傷の生々しさ、痛みを感じ取ったゆえに、しかもそれらが他の誰でもなく、この私のために起こったことを実感することから、生じてくる罪の告白であり、信仰の告白なのです。これこそ、主が来て、真ん中に立たれることよって起こる、救いの出来事なのです。

主の復活を理解できずに、恐れる弟子たち、復活の主に出会う機会を逸し、仲間の証言を信じていることができずに疑うトマス。いずれも週の初めの日、復活の日の出来事でした。また8日の後に、再び復活の主が彼らのところに来て、真ん中に立たれた様子は、週の初めの日に、主の復活を祝い、集められる礼拝の場で起こる、神の出来事を意味していると言えるでしょう。礼拝のたびに、復活の主は来て、私たちの真ん中に立たれ、平和を告げられるのです。日常の生活の中で「平和」から遠ざかり、主の平和を見失って、恐れる私たちに、真の平和を思い出させるのです。私たちの真ん中に立ってくださる、復活の主に今日も出会い、新たな一週的生活へと遣わされてまいります。 (復活節第2主日)

田園都市線藤が丘駅を降り立ち、坂を上ると、丘の上に扉が開けられた建物が見えてきました。初めて訪れた教会は母教会である大岡山教会とよく似た佇まいで、安心して足を踏み入れることができました。城南神奈川地区の「新しいヴィジョンを建てよう」という思いと熱い伝道への熱意から創立された藤が丘教会で神学校2年の教会実習ができること大変光栄に思います。

私はクリスチャンホームで育ち、キリスト教学校で学び、高校1年生のときに日本基督教団三軒茶屋教会で受洗いたしました。大学卒業後、母校の小学校の教員になり、教員になると同時に学校と関係の深い日本基督教団鳥居坂教会に転籍、結婚後は夫も導かれて教会生活を続けておりました。

夫の転勤に伴い退職、1988年4月から約4年間ロンドンに滞在しました。ロンドン滞在中は、地元のOakleigh Chapel 及び JCF (ロンドン日本人教会) で教会生活を続け、現地で長女由〇、長男〇史を出産し

ました。Oakleigh Chapel でも JCF でも温かい交わりの中に加えていただき、特に長女出産後は、両方の教会の方々に助けていただき、現地での出産、子育てに不安を感じることもなく、充実したロンドン生活を送ることができました。



今が定められた時、
備えられた道を歩む

神学校牧師養成コース2年
大〇〇子

両立は苦労も多くありましたが、親として十分なことができなくても、子どもたちは教会に育てていただきました。そして私も2015年に子どもたちの信仰を導いてくださった大岡山教会に転籍しました。

2020年3月、緊急事態宣言発令と共に、学校は先の見えない臨時休業に入りました。これまで経験したことのない長期に及ぶ臨時休業の中で、勤務校では臨時休業中であつても子どもたちに学校に登校したときと同じように、1日の生活を礼拝で始めようということから、YouTubeで礼拝を配信しました。たとえ画面越しであつても子どもたちと共に礼拝を守り心が一つ

にされていくことに感謝し、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28:20)というみ言葉に励まされ力をもらいました。そして定年退職後もみ言葉に聞き従い、み言葉を語り続ける者でありたいと願い、神学校に導かれ

ました。昨年度は小学校で週2日非常勤講師として勤務しながらの二刀流の神学生でしたが、この1年間の学び、そして東京池袋教会での教会実習を通して、多くの方々の祈りに支えられ、自分の思いからではなく、主に導かれてこの道が備えられたことを確信することができるようになりました。

昨年、江口再起先生より藤が丘教会創立に至るまでの経過、初期の宣教活動について伺う機会がありました。今ルーテル教会は地方教会だけではなく、東教区においても急激な牧師減少に備えて地区の再編と他教会との具体的な協力体制の構築が求められています。牧師の減少だけではなく、信徒の減少も顕著でさらにコロナ禍における教会活動の制限は、宣教課題をさらに深刻のものにしています。40年前にはとても想像できなかった危機的な状況にありますが、このようなときでも、このようなどきだからこそ、伝道への熱意から始まった藤が丘教会の根底にある開拓伝道の精神を、実習を通して学ばせていただきたいと思います。

【家ごもりで思うこと したらいふ】

名〇 匡〇

「神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただいたこの慰めによって、あらゆる苦難のある人々を慰めることができます」

コリントの信徒への手紙二
一章四節

2019年12月初旬に中国の武漢市で第1例目の感染者が報告されてから、数か月でパンデミックになり私たちの日常が一変しました。感染予防のためソーシャルディスタンスを保つため、人々が集うイベントあらゆる催し物が取りやめとなり、人の出入りが多いすべての施設で活動が半減か中止になりました。教会でも分断礼拝となりA、B2組による隔週礼拝で自分以外の組の兄弟姉妹の方の様子を見ることが出来ないまま2年越えが過ぎ、今月からグループ1、2になり新しいスタートになり

ます。それでも分断隔週は変わりません。コロナ禍での家ごもり生活皆様はいかがお過ごしですか。きつとお元気に守られた日々をお過ごしのことと信じています。私事ですが、家ごもり中に新約聖書の手紙の部分を読もうと決心しましたが、雑念に惑わされて進んでいません。今のところコリントの信徒への手紙で足踏みしています。意志が弱いですね。この頃、私は礼拝時の信仰深い兄弟姉妹方のお祈りに感動しています。藤が丘だよりの中に祈りの文を掲載してはどうでしょうか。身勝手ですか。日々コロナ終息がきて、分断ではなく一堂に会しての礼拝が出来るようになることを祈っています。兄弟姉妹の皆様方とお会いして共に祈り語りたいです。

今テレビのニュースを見ていますと、ロシアによるウクライナ侵攻が主な報道になっています。戦争の残酷で悲惨な光景を見て心が痛みます。私自身8歳のころ第2次世界大戦「沖繩戦」を体験した一人です。1945年3月から6月まで約4か月の間、昼間は山の防空壕、暗くなると家に戻り明日の食べ物の準備

朝が白みだしたら防空壕と飢えと渴きを覚えつつ飛行機の襲来を恐れつつ、エンジン音が聞こえない時は野山川、海に食べ物求めてさまよっていました。沖繩の場合は気温が高いので寒さで凍えることはありません。食べ物も海に行けたら魚貝海藻はいくらでもありますが、海は戦闘機の襲来時逃げ場がありませんので子供は行くことを禁じられていました。でも、空腹を満たすために魚や貝類を取りに行き、飛行機が見えたら鼻だけを水上に出し岩になりきっていました。

沖繩戦の犠牲者は日本軍・連合軍・一般人・台湾・北朝鮮・韓国を含めて24万1千632人で、平和の礎に名前が刻まれている数です。

沖繩での激戦は1945年6月末日にて終結、一足先にアメリカ軍の占領下になりました。第2次世界大戦は日本が1945年8月10日ポツダム宣言受託によって終結、平和復興が動き始めました。同時に英国、アメリカ、カナダ、北欧からたくさん宣教師が訪れて開拓伝道が始まり、村々で天幕伝道集会が盛んになり、お陰様で私も高校2年生の時バ

プテスト教会で洗礼を受けて主にあずかる者になりました。以後、たくさん恵みと守りのうちに今日にいたっています。

今、私はロシア軍のウクライナ攻撃をテレビで見ると、いたたまらなく苦しくなります。歴史上での深い関係がある両国ですから、理解を深め話し合いで一日も早く終結して欲しいと祈り願っています。私は、キリスト者として何をしたらいいのかわからない自分を哀れに思っています。神様ウクライナに火薬と鉄の雨ではなく、恵みに満ちた平和の雨を豊かに降らせてください。



●田○一郎さんより

2019年の2月末からコロナ感染のために突然テレワークが始まりました。以来職場には数回しか行っていない。朝の通勤がなくなつて時間の余裕ができたので、NHKの朝ドラを視るようになりました。「エール」「おちよやん」「おかえりモネ」「カムカム・エヴリバディ」「ちむどんどん」と毎回欠かさず視ており、時には番組を視ながら家内と二人で突っ込みを入れたりもしています。「カムカム・エヴリバディ」の中でルイ・アームストロングの「オン・ザ・サニー・サイド・オブ・ザ・ストリート」という楽曲が何度も流れてきました。気になつたので歌詞を調べてみたら次のような一節がありました。「明るい表通りを歩けば／全てがうまくいく／今まで暗い道ばかり歩いて来たんだ／でも今は怖くない」コロナ禍になつて親しい人々と顔を会わせて話をする 것도 儘ならず、閉塞感ばかりが募る毎日です。しかし、私にとつて「明るい表通り」とは一体何だろうと考えた時に、それはやはり神の愛に

照らされたところだと思いました。そう思いながらこの楽曲を聴けば、神の愛に照らされた明るい表通りを歩く自分を想像し、私には閉塞感の中での一服の清涼剤になつていきます。今年度も一年間会計と管財を担当します。宜しくお願ひします。

●藤○理さんより

転会してまだ日の浅い私が、役員



という責任の重いお役目をいただき、身の引き締まる思いです。皆さまのご指導を宜しくお願ひいたします。

朝6時過ぎに家を出て、徒歩20分の公園で、地域の仲間とラジオ体操と太極拳で体をほぐします。終わると四季折々の花や鳥を探してみんなで散歩するのが日課です。コロナ禍の健康維持にも役立っています。

主日礼拝ライブ配信の回想録

7

ー心地よさを目指してー

田○○夫

視聴くださった信徒の皆さんからのご意見、ご感想にも当然の如く、聴きづらい音声にまつわる事柄が多く寄せられて来ました。どのような手立てを打てばこれらの現象を一気に解消し聴きやすい音声とすることがができるのか、と具体的な手立てがないままにやる気を失いそうになりましたが「反対にこの問題をクリアできれば全てが解決するぞ」と気持ち奮い立たせ改めて真剣に向き合い始めたのです。そこで「ただ、大変だ！大変だ！」とあたふたするのではなく、冷静に問題を把握しきちんと理解した上で改善しなければならぬ点を見極め優先順位をつけることにしました。

①各音声レベルのアンバランスと歪みからくる違和感 ②騒音の混入と電気的パチパチ音の除去 ③音声機器とマイクとスピーカーによるハウリングもどきの音の阻止の3点にまずは焦点を絞り①と②を緊急課題とし、それらの対策を講じてゆきな

がら③の問題の様子を見て臨機応変に対応してゆくこととしたのです。

「オルガンの音が大きすぎて讚美歌を歌う声が聞こえない」「先生の声が波打つて聞こえる」「説教が全く聞こえない」「音声全体がハウリングして聞こえる」「キンキン音が聞こえる」「数人の人の声が入っている」などなど、その後も貴重なご意見が寄せられ、その都度よかれと思われる調整をするものの一つの問題をクリアすれば、今度は他の機材との音声のバランスが崩れてしまうという厄介な現象が次々と現れ始め、対処しても対処しても先の見えない暗闇の中に迷い込んでしまい「聴きづらい」状態の音声配信をしばらくの間続けざる得ませんでした。

毎週帰宅後、その日に見られた問題を一つ一つ思い返し、もしかして同じ問題で苦しんでいる人がいるのではないかと、この思いからネット検索に解決の糸口を探し求めました。しかし、何時間かけて検索しても、当たり前なのですが、「これだー！」と思えるような記事を見いだすことはできず、時にはいつしかパソコンのイスで眠りこけてしまい、気がつ

けば焦りだけが気持ちの中で燻り続ける、そんなやる瀬ない時間を重ねることもしばしばでした。寂しさと焦りとの逼迫感がそうさせたのか分りませんが、ふっとひらめいたことがあり、問題の解決につながるかどうか判りませんでした、まずとにかく行動に移してみました。それは、難しい事柄でもなんでもなく、皆さんから頂いた当初からのご意見を今一度思い返し、文字として書き起こし整理して箇条書きにしたのです。つまり、今まで問題を整理したつもりになっていたのですが、それ

はあくまでも頭の中だけでの整理であり、きちつと文字化・文章化して見つめることはしていなかったことに始めて気付いたのです。そして、その箇条書きをパソコンの画面の横に貼り付け常に確認しながらフェイスブックの配信映像を、目が霞んで疲れるまで繰り返し見続けました。気がつけば夜中になってしまいました。「そろそろ寝なくては」と気持ち切り替えるものの頭は冴え続けており、結局眠れずに朝を迎えてしまい朝焼けに染まる天井を見つめると「ちよつと聴いてられないな」「どう

して声が聞こえなくなっちゃうの」「今後、聴くのが嫌になって別の教会のFMを覗いちゃうかもしれない」と冗談交じりに感想を聞かせてくださった教会員の方のお顔が浮かんできて、ちよつぱり切ない気持ちを引きずりながら一日を過ごしたこともありました。

は、沢山の人が使うことによってFMの電波が分散して弱くなり、その結果として音声の中にプチプチという電気的な雑音を加えているのではないかと想定したからなのです。何とかして、どうにかしてライブ配信の音声を安定させたいとの焦燥感から出された策でもあったのでした。その結果、FM利用を前提にして礼拝出席をされていた教会員の方々には大変なご不便をおかけすることとなってしまいました。

■教会の動向



主の復活の喜びを申し上げます。4月17日にイースターを迎え、24日の礼拝を含め、2度聖餐式をいたしました。4月より1年半の予定で大和友子神学生が、教会実習を始められました。お祈りください。

4月に初めて礼拝にいられた方は、○本○一先生、○子さん、小山○子さん、○希さん、国○平さん、○保○子さん、○藤美○子さん、○野○紀さん、○季さん、北○菜○さんでした。主の祝福をお祈りします。(佐藤)



今月の受洗記念日の皆さん

14日 ○田○兄 名○恵○子姉
15日 上○○哉兄 17日 ○田○恵姉
21日 ○藤○子姉 25日 ○野○兄
26日 ○谷○と姉 27日 ○田○子姉

おめでとうございます。

「実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉聞くことによって始まるのです。」ローマの信徒への手紙 10章17節
福音伝道ウェブサイト <https://www.fujigaokalc.org/>
フェイスブックで礼拝のライブ中継をしています。(毎日17時10分)